2019 年版　（2019 年 1 月～2019 年 12 月）

# 環境経営レポート

認証・登録番号　0000828

（2006 年 6 月 21 日　登録）

（2018 年 6 月 21 日　更新）

2020 年 1 月 31 日

新和メッキ工業株式会社

# 目次


| 分類 | No. | タイトル | ページ |
|---|---|---|---|
| PLAN | A | 組織の概要と対象範囲及び実施体制 | 3 |
| | B | 経営における課題とチャンス | 5 |
| | C | 環境経営方針 | 6 |
| | D | 環境経営目標と環境経営計画 | 7 |
| DO | E | 環境経営計画に基づき実施した取組内容 | 8 |
| CHECK | F | 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 | 11 |
| | G | 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 | 16 |
| | H | 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果 | 17 |
| ACT | I | 代表者による全体の評価と見直し | 18 |

## A. 組織の概要と対象範囲及び実施体制

### １．組織の概要

１．事業所名　　新和メッキ工業株式会社
２．代表者氏名　　瀧見　直人
３．所在地　　新潟上越市大字土橋 1631 番地
４．環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

| | | | |
|---|---|---|---|
| 責任者 | 環境管理責任者 | 専務取締役 | 瀧見　直晃 |
| 担当者 | 環境管理事務局 | 総務部 | 瀧見　香 |
| 連絡先 | 電話 | 025-524-5426 | |
| | Fax | 025-524-5498 | |
| | E-mail | takimi@sinwa-mekki.com | |
| | ホームページ URL | http://www.sinwa-mekki.com/ | |

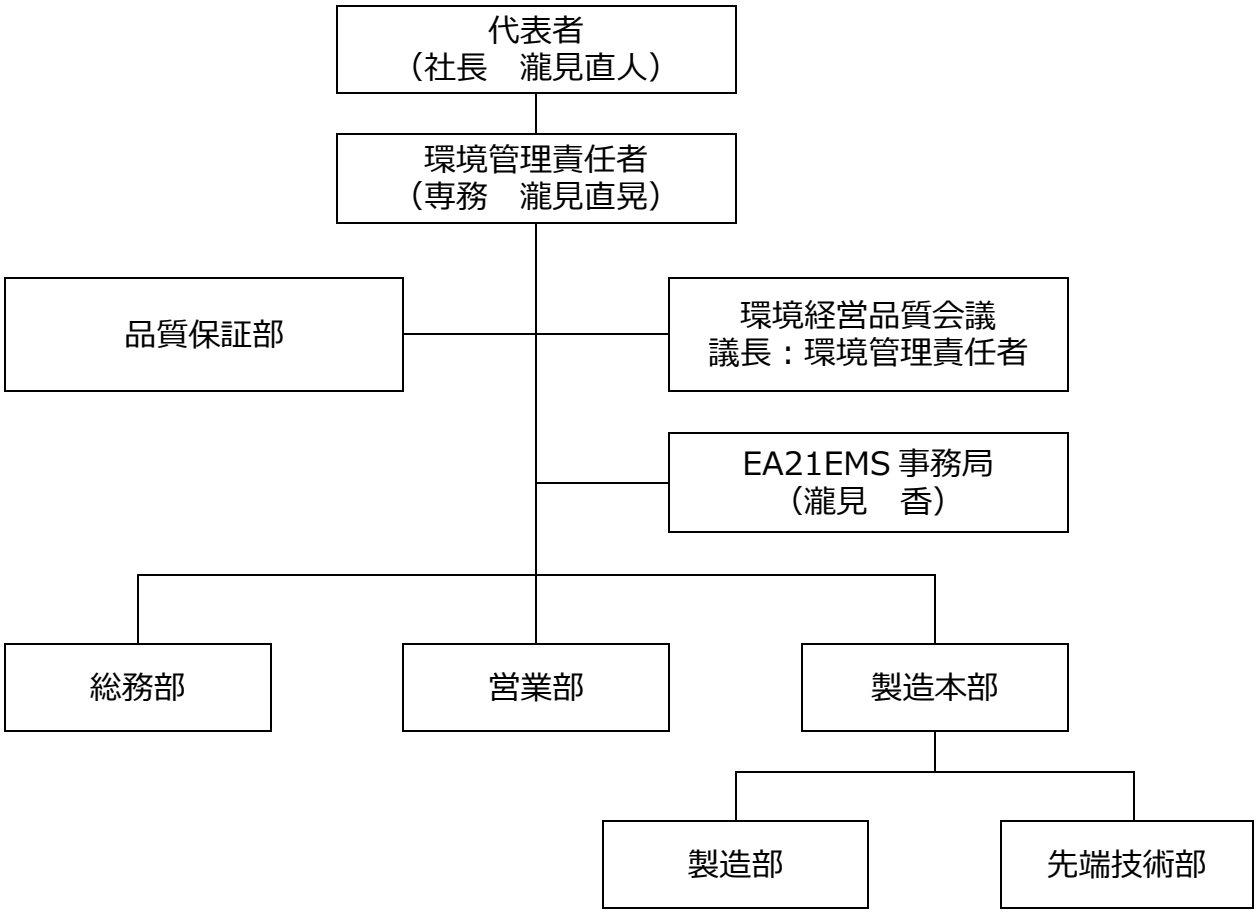
５．事業活動の内容
（１）ニッケルクロムめっき
（２）亜鉛めっき
（３）亜鉛ニッケル合金めっき
（４）無電解ニッケルめっき
（５）ボンデ処理（アルミ素材）
（６）無電解ニッケル-金めっき
（７）通訳・翻訳サービス

６．事業規模

| 項目 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 |
|---|---|---|---|
| 売上高（万円） | 21,397 | 22,788 | 24,308 |
| 従業員数（人） | 22 | 22 | 22 |
| 敷地面積（$m^2$） | 2,031 | 2,031 | 2,031 |
| 工場延べ床面積（$m^2$） | 833 | 870 | 870 |

７．対象範囲（認証・登録範囲）　　全組織・全活動

８．環境経営マネジメントシステムの実施体制



## B. 経営における課題とチャンス

当社は、2019 年度の経営における課題とチャンスを以下のように捉え、これらを環境への取組に反映させた。

| | 課題 | チャンス |
|---|---|---|
| 内部 | ・ 電気を大量に使用する。<br>・ 設備が老朽化している。<br>・ 消耗品の削減が困難である。<br>・ 排水基準の遵守（特にふっ素及びその化合物）が困難である。 | ・ 電力量の削減、省エネにより、競争力が向上する。（コスト削減）<br>・ 不良品削減により生産性が向上する。<br>・ 社員の意識が向上している。<br>・ 意欲的な若手社員がいる。（平均年齢 42 歳） |
| 外部 | ・ 環境及び品質について顧客要求を満たさないと取引ができない。<br>・ 多品種小ロット等、顧客ニーズの多様化に対応しなければならない。<br>・ 原材料費が上昇している。（特に金）<br>・ 自然災害が増加している。<br>・ 顧客の SDG s への関心が高まっている。 | ・ 新市場を開拓する。<br>・ 顧客の要望に応えて、信頼性を向上させる。<br>・ 品質を向上させる。<br>・ 独自製品を開発する。<br>・ BCP を構築する。<br>・ 同業他社との差別化を図る。 |

## C. 環境経営方針

１．基本理念

新和メッキ工業株式会社は、化学物質を取り扱う表面処理業者として、これまで積み上げた技術に新しい技術を取り入れ、お客様のニーズにあっためっき処理加工を施すことを使命とし、地球環境に配慮した企業活動に全社一丸となって取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指します。

２．環境経営方針

（１）環境関連法規制を順守します。

（２）二酸化炭素排出量の削減に努めます。

（３）水の使用量の削減に努めます。

（４）廃棄物の削減と適正処理（分別・リサイクル等）に努めます。

（５）化学物質使用量の削減に努めます。

（６）持続可能な社会の実現を目指し、環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発を行います。

（７）事業活動が環境に与える影響を把握し、環境保全に関する目標・計画を定め、継続的な改善と向上に努めます。

（８）環境経営方針の周知徹底を含め、全社員の環境経営意識の向上を図り、社外に対して公表します。

2005 年 12 月　1 日　制定
2019 年　8 月　1 日　制定

新和メッキ工業株式会社
代表取締役社長　　瀧見　直人

## D. 環境経営目標と環境経営計画

| 環境経営目標 | 数値目標 | 環境経営計画の内容 | 記録 | 担当部門 |
|---|---|---|---|---|
| 1．環境関連法規制の順守 | ― | ・排出水の水質検査<br>・騒音測定<br>・作業環境測定<br>・健康診断<br>・マニフェストの管理<br>・浄化槽検査<br>・特定施設の届出<br>・消防計画と設備点検 | 自主検査記録、計量証明書<br>騒音測定記録<br>作業環境測定結果報告<br>健康診断結果報告書<br>マニフェスト<br>保守点検報告書<br>特定施設の変更届<br>消防用設備届<br>消防用設備点検結果報告書 | 総務部<br>社長<br>総務部<br>総務部<br>総務部<br>総務部<br>社長<br>社長 |
| 2．二酸化炭素排出量の削減 | 前年度に対し、1%削減 | ・設備機器空運転の防止<br>・不要時の照明の消灯<br>・蒸気配管の漏れ点検<br>・エコ運転の推進<br>・作業効率の向上 | 環境経営活動実施記録表 | 全部門 |
| 3．水使用量の削減 | 前年度に対し、1%削減 | ・効率の良い水の使用<br>・配管・バルブの漏れ点検<br>・生活用水の節約<br>・作業効率の向上 | 環境経営活動実施記録表 | 全部門 |
| 4．廃棄物の削減と適正処理 | 前年度に対し、1%削減 | ・産業廃棄物分別の徹底及び数量把握 | マニフェスト<br>廃棄物管理票<br>環境経営活動実施記録表 | 全部門<br>社長 |
| 5．化学物質使用量の削減 | 適正管理による維持活動 | ・化学物質使用効率の最適化<br>・作業効率の向上 | 環境経営活動実施記録表 | 全部門 |
| 6．環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発 | ― | ・同業他社への見学<br>・展示会での情報収集<br>・新和 ZiNT の販売促進<br>・シアンフリーの表面処理の開発 | 環境経営活動実施記録表 | 全部門 |
| 7．事業活動の継続的改善 | ― | ・環境経営品質会議の実施<br>・環境掲示板（LINE WORKS）の活用<br>・品質の向上<br>・作業環境の改善<br>・環境関連法規制に変更があった際の事業活動の見直し | 環境経営品質会議議事録<br>環境掲示板（LINE WORKS） | 全部門 |
| 8．環境経営意識の向上 | ― | ・教育訓練計画の作成及び実施<br>・５S 運動の充実<br>・工場周辺の美化活動 | 教育・訓練実施記録表 | 全部門 |

## E. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

1．環境関連法規制の順守
・すべての法規制を順守している
・2014 年 11 月より、トリクロロエチレンの使用を中止している

2．二酸化炭素排出量の削減

| 項目 | | 単位 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 対前年比 |
| 総エネルギー投入量 | 電力 | kwh | 228,521 | 240,691 | 222,789 | △7.4% |
| | ガソリン | L | 1,307 | 1,594 | 1,706 | +7.0% |
| | 軽油 | L | 6,610 | 6,356 | 5,971 | △6.1% |
| | 灯油 | L | 1,513 | 1,591 | 1,577 | △0.1% |
| | 都市ガス | $m^3$ | 70,674 | 78,394 | 72,159 | △8.0% |
| 二酸化炭素排出量 | | kg-$CO_2$ | 279,596 | 294,762 | 273,497 | △7.2% |

3．水使用量の削減

| 項目 | 単位 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 対前年比 |
| 上水 | $m^3$ | 13,708 | 16,485 | 17,004 | +3.1% |
| 地下水 | $m^3$ | 673 | 1,672 | 168 | △90.0% |

4．廃棄物の削減と適正管理

| 項目 | 単位 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 対前年比 |
| 一般廃棄物 | kg | 1,630 | 1,746 | 1,906 | +9.2% |
| 産業廃棄物 | kg | 38,520 | 46,580 | 49,370 | +6.0% |
| 産業廃棄物（特別管理） | kg | 7,650 | 11,090 | 8,580 | △22.6% |

5．化学物質使用量の削減

| 項目 | 単位 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 |
|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 6 価クロム化合物 | kg | 985 | 995 | 1,200 |
| ニッケル | | 3,024 | 3,154 | 3,054 |
| ニッケル化合物 | | 455 | 477 | 490 |
| フッ化水素及びその塩 | | 245 | 295 | 322 |

## ６．環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発

環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発について、今年度は以下の取り組みを行った。

| | |
|---|---|
| ① | 2019年2月1日に東京都で開催された表面処理業界向けの展示会「SURTECH 2019」にて、最新の表面処理技術や環境配慮型の排水処理設備について情報収集を実施した。 |
| ② | 2019年4月17日から19日にかけて、愛知県で開催された「機械要素技術展」に出展し、耐食性が高く金属部品の長寿命化を可能とする当社の技術「新和 ZiNT」の販売促進を行った。 |
| ③ | 2019年4月25日から26日にかけて、アメリカ合衆国ノースカロライナ州に出張し、技術提携先である PAVCO 社の訪問と、現地めっき工場の Roy Metal Finishing の工場見学を行った。 |
| ④ | 2019年5月15日、長野県で開催された「長野しんきんビジネスフェア」に出展し、新和 ZiNT の販売促進を行った。 |
| ⑤ | 2019年6月28日、平成30年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金に、「イオン交換式水洗洗浄化によるクロムめっきの品質及び生産性の向上と新市場の開拓」が採択された。 |
| ⑥ | 2019年7月25日に、上越市新産業創造支援事業に、「高防錆性表面処理「新和 ZiNT」の大型素材への適用を目指した試作開発」が採択された。 |
| ⑦ | 2019年8月5日、にいがた産業創造機構イノベーション推進事業に、「トップコート付き亜鉛ニッケル合金めっきの亜鉛ダイキャストへの適用を目指した研究開発」が採択された。 |
| ⑧ | 2019年12月4日から6日にかけて、東京都で開催された「中小企業 新ものづくり・新サービス展」に出展し、新和 ZiNT の販売促進を行った。 |

## ７．事業活動の継続的改善

事業活動の継続的改善について、今年度は以下の取り組みを行った。

| | |
|---|---|
| ① | 2019年1月7日に全社員を対象に、2018年度の取りまとめと2019年度の事業計画について説明を行った（環境経営品質会議）。 |
| ② | 2019年4月20日に全社員を対象に、2019年度のエコアクション21の計画について説明を行った。また、各ラインの目標について説明した。 |
| ③ | 2019年5月15日、「心の健康づくり計画」策定し、全社のメンタルヘルスケアを充実させた。 |
| ④ | 2019年5月24日、ビジネスチャットツール「LINE WORKS」を導入した。 |
| ⑤ | 2019年６月22日に全社員を対象に、2018年度の環境関連法規制について、変更点などの説明を行った。 |
| ⑥ | 2019年8月15日、Ni-Cr 乾燥機と亜鉛めっき乾燥機を、熱風を外に出さないように改造工事を行った。 |
| ⑦ | 2019年12月、工場内の電気設備の更新プロジェクトを立ち上げた。 |

## ８．環境経営意識の向上

環境経営意識の向上について、今年度は以下の取り組みを行った。

| | |
|---|---|
| ① | 2019年2月16日に工場敷地内の側溝掃除を行った。 |
| ② | 2019年10月21日に工場内の５Ｓ活動を行った。 |
| ③ | 2019年10月21日に環境に関わる緊急事態に対する訓練を実施した。 |

## F. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

1．環境関連法規制の順守

すべての関連法規制を順守している。来年度も引き続き変更などに適宜対応していきたい。

2．二酸化炭素排出量の削減

| 項目 | 単位 | 2018 年 | 2019 年 | | | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 目標 | 実績 | 比率 | |
| 二酸化炭素排出量 | k g-$CO_2$ | 294,762 | 1%削減 | 273,497 | △9.2% | 達成 |
| | 万円 | 1,473 | ― | 1,498 | ＋10.2% | |

二酸化炭素排出量の算出係数は、2017年度の日本テクノ株式会社の実排出係数0.418ｋｇ-$CO_2$kWh を使用した。

2018年と比較し、総量で9.2%の削減となった。削減の一番の要因は、2018年9月にボイラー設備の更新を行ったことと考えられる。高効率タイプで、低燃焼時の出力を1/4まで（従来のものは1/2）削減できる設備となっている。これにより、都市ガスを9.2%削減できた。

3．水使用量の削減

| 項目 | 単位 | 2018 年 | 2019 年 | | | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 目標 | 実績 | 比率 | |
| 水使用量 | $m^3$ | 16,485 | 1%削減 | 17,004 | ＋3.1% | 未達成 |
| | 万円 | 437 | ― | 453 | ＋3.5% | |

上水は総量で3.1%の増加となり、目標は未達成となった。2017年は総量21.1%の増加であったため、一定の節水効果があったと考えられる。

2015年より電子部品向け金めっき、2017年より亜鉛ニッケル合金めっきをスタートし、売上も伸び、水使用量も増加している。今後も「環境負荷の低減を目指した品質の向上」を第一に、日々の節水を目指していく。

## ４．廃棄物の削減と適正処理

| 項目 | 単位 | 2018 年 | 2019 年 | | | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 目標 | 実績 | 比率 | |
| 産業廃棄物 | kg | 46,580 | 1%削減 | 49,370 | ＋6.0% | 未達成 |
| | 万円 | 148.3 | | 169.8 | ＋14.5% | |
| 産業廃棄物（特別管理） | Kg | 11,090 | 1%削減 | 8,580 | △22.6% | 達成 |
| | 万円 | 90.0 | | 63.4 | △29.5% | |
| 一般廃棄物 | kg | 1,746 | 1%削減 | 1,907 | ＋9.2% | 未達成 |
| | 円 | 41.7 | | 44.2 | ＋5.9% | |

一般廃棄物については昨年度より増加し、目標は未達成となった。また、金めっきラインの増産及び品質の確保のため、廃酸と廃ニッケル液の量が大幅に増加したが、自社では処理できないため、業者を選定して適切に処理している。今後は売上の上昇を目指しながら、廃棄物の削減を目指す。

## ５．化学物質使用量の削減

| 項目 | 単位 | 2018 年 | 2019 年 | | | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 目標 | 実績 | 比率 | |
| 6 価クロム化合物 | Kg k g | 995 | ― | 1200 | ＋20.6% | ― |
| ニッケル | k g | 3,154 | ― | 3,054 | △3.1% | ― |
| ニッケル化合物 | k g | 477 | ― | 490 | ＋2.7% | ― |
| フッ化水素及びその塩 | k g | 295 | ― | 322 | ＋9.1% | ― |

化学物質使用量については昨年度より増加した。化学物質使用量は売上に左右される傾向にあるが、適切にめっき処理を行い、来年度も売り上げを増加させながら化学物質使用量を低減させるよう努力したい。

## 6．環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発

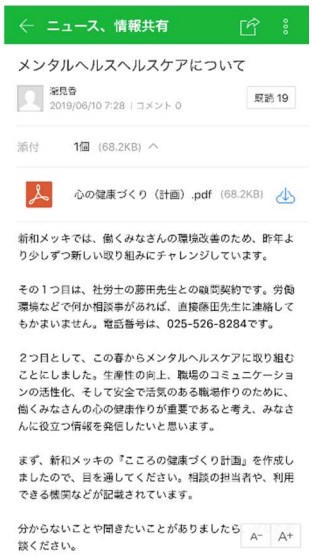
| | |
|---|---|
| ① | 2019 年 2 月、東京都で開催された展示会 SURTECH2019 にて情報収集を行った。特に、最新の排水処理方法である膜ろ過システムについて情報収集した。当社の排水処理はフィルタープレスを使用する古いシステムであるため、新たに導入する際の参考としたい。<br> |
| ② | 2019 年 4 月、名古屋で開催された機械要素技術展に出展し、耐食性の高い表面処理「新和 ZiNT」の販売促進を行った。トレンドとして、ダイキャスト素材への表面処理に関する関心が高まっていることを認識した。<br> |
| ③ | 2019 年 4 月、アメリカのノースカロライナ州にある出張し、当社の技術提携先である PAVCO 社を訪問し、さらに現地のめっき工場 Roy Metal Finishing 社の工場見学を行った。アメリカでは特に水素脆性の課題への注目度が高く、このトレンドは日本にも近く波及するであろうと認識した。アメリカは環境負荷への関心も高く、シアンフリーやクロムフリーのめっき液に関する研究も進んでいた。<br> |

| | |
|---|---|
| ④ | 2019 年 5 月、長野県で開催された長野しんきんビジネスフェアに出展し、新和 ZiNT の販売促進を行った。今回はブースの出展だけでなく、プレゼンターとして来場者向けのプレゼン発表を行い、新和 ZiNT の PR を行った。<br> <br> <br> |
| ⑤ | 2019 年 6 月、平成 30 年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金に、「イオン交換式水洗洗浄化によるクロムめっきの品質及び生産性の向上と新市場の開拓」が採択された。これにより、クロムめっきにおける排水処理能力が向上し、基準値を超える排水の流出を防止することができる。2019 年 11 月に設備導入が完了した。 |
| ⑥ | 2019 年 7 月、上越市新産業創造支援事業に、「高防錆性表面処理「新和 ZiNT」の大型素材への適用を目指した試作開発」が採択された。原発関連施設内での使用を想定される大型素材へ新和 ZiNT を適用するプロジェクトで、実現すると素材の長寿命化及び汚染物質の削減が可能となる。 |
| ⑦ | 2019 年 8 月、にいがた産業創造機構イノベーション推進事業に、「トップコート付き亜鉛ニッケル合金めっきの亜鉛ダイキャストへの適用を目指した研究開発」が採択された。これまで、亜鉛ニッケル合金めっきについては鉄素材向けに開発を行ってきたが、新たに亜鉛ダイキャスト素材への挑戦を行う。亜鉛ダイキャストは一般的にシアン化銅めっきを下地に利用しているが、当社の処理ではシアンの利用が必要なくなるため、環境負荷の削減が可能となる。 |
| ⑧ | 2019 年 12 月、東京都で開催された中小企業 新ものづくり・新サービス展に出展し、新和 ZiNT の販売促進を行った。ここでもダイキャスト素材への表面処理のニーズを多く耳にし、さらに SDGs への関心の高まりから、環境負荷の低減に注目している企業が多いことを認識した。<br> <br><br> <br> |

## 7．事業活動の継続的改善

事業活動の継続的改善については、全社員に対して2018年度の1年間の振り返りと2019年度の事業計画の説明、エコアクション21の計画の説明、及び環境関連法規制の変更点等の説明を行い、改善が必要な項目を見つけて対応する体制をとっている。また、品質についても不具合案件が発生するごとに関連する部署と連携して、再発防止に努めている。2019年度に特に新しく導入した取組として、従業員のメンタルヘルスの改善を目指した「心の健康づくり計画」が挙げられる。これにより、物理的な作業環境の改善だけでなく、心理面でのサポートができるようにしていきたいと考える。また、ビジネスチャットツール「LINE WORKS」を導入し、品質掲示板及び環境掲示板を作成して重要な連絡事項の伝達漏れがないようにした。

外部講師を招き、「心の健康づくり計画」を策定し、さらに管理職スタッフ向けに研修を実施した。
LINEWORKS を使い、このような情報を共有している。




## 8．環境経営意識の向上

2019年度は、春先に工場敷地内の側溝掃除を実施し、秋に工場内の５S 活動を実施した。さらに、環境に関わる緊急事態に対する訓練として、LINEWORKS を用いて緊急事態発生時の従業員の安否確認を行った。次年度も引き続き、全社員の環境経営意識の向上を促す活動を実施する。

側溝清掃の様子

倉庫の５S 活動の様子

## G. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

| 項目 | 単位 | 2018年 | 2019年 | | | 2020年 | 2021年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 実績値 | 目標 | 実績値 | 比率 | 目標 | 目標 |
| $CO_2$排出量 | kg-$CO_2$ | 294,762 | 1%削減 | 273,497 | −7.2% | 1%削減 | 2%削減 |
| 水使用量 | L | 16,485 | 1%削減 | 17,004 | +3.1% | 1%削減 | 2%削減 |
| 産業廃棄物 | ｋｇ | 46,580 | 1%削減 | 49,370 | +6.0% | 1%削減 | 2%削減 |
| 産業廃棄物（特別管理） | ｋｇ | 11,090 | 1%削減 | 8,580 | −22.6% | 1%削減 | 2%削減 |
| 一般廃棄物 | ｋｇ | 1,746 | 1%削減 | 1,906 | +9.2% | 1%削減 | 2%削減 |

環境負荷に配慮しためっきプロセスの開発、事業活動の継続的改善、及び環境経営意識の向上についても、2019 年度と同様に積極的に取り組みを行っていきたい。

## H. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果

環境関連法規の順守状況

| 法規制の名称 | 適用する項目 | 順守状況 |
|---|---|---|
| 公害防止組織法 | 公害防止組織の整備 | ○ |
| 水質汚濁防止法 | 特定施設の届出 | ○ |
| | 排水基準の遵守 | |
| 毒物劇物取締法 | 取扱責任者の選任 | ○ |
| | 保管における表示 | |
| 廃棄物処理法 | マニフェストの運用 | ○ |
| 消防法 | 消防用設備等の点検報告 | ○ |
| 労働安全衛生法 | 特定化学物質等作業主任者の選任 | ○ |
| | 作業環境測定の実施 | |

2019 年 1 月～2019 年 12 月の排出水の検査結果

| 検査項目 | 最小値 | 最大値 | 排水基準 | 自主管理基準 |
|---|---|---|---|---|
| pH | 6.2 | 8.1 | 5.8～8.6 | 5.8～8.6 |
| 亜鉛 | 0.63 | 2.0 | 5 | 2 |
| 六価クロム | <0.02 | 0.07 | 0.5 | 0.2 |
| トリクロロエチレン | 0.003 | 0.003 | 0.3 | 0.3 |
| ほう素 | 1.1 | 1.1 | 30 | 10 |
| ふっ素 | 5.6 | 9.4 | 15 | 8 |
| BOD | 15 | 19 | 25 | 25 |
| 硝酸・亜硝酸性窒素 | 65.4 | 82 | 100 | 100 |

単位：pH を除き mg/L

環境関連法規への違反はありません。
なお、関係当局よりの違反の指摘は、過去３年ありません。

## I. 代表者による全体の評価と見直し

2019年は、前年に引き続き売り上げが２億円を超えた。金めっきラインが当社の主力ラインとなり、大きく売り上げに貢献した。また、亜鉛ニッケル合金めっきの量産もスタートし、この2つのめっきが今後当社の主力製品になっていくと考えている。品質の確保が最優先事項ではあるが、薬品メーカー等の力を借りて、次年度は環境負荷の低減を目指していきたい。

2019年の大きな設備投資としては、6価クロムイオン交換塔の入れ替え工事があった。今後も積極的な設備投資で、工場の環境を改善し、さらに環境負荷の低減を目指したい。

環境目標の達成状況としては、水・廃棄物について、目標未達成となった。特に水に関しては近年増加傾向になっている。品質の維持と水使用量の削減が同時に達成できるように、次年度は取り組むようにする。それにあたり、品質マニュアルの見直しを指示した。

2019年も、多数の展示会に出展し、また新規めっきプロセスの開発も行った。今後も研究開発型のめっき屋として、常にお客様のニーズを聞き、新しいめっき技術を提案していきたい。

近年の企業活動のながれとして、持続可能な社会をめざし、SDSs 活動を行うことが求められる場面が増えてきている。当社としても、そこに対する課題とチャンスをきっちり見極め、次年度の活動を行うこととする。

当社は中小企業でありながら、新しい社員が増え、現在は男性１５名、女性７名、平均年齢42歳のメンバーで事業活動を行っている。エコアクションのキックオフから１4年が経過し、古くからの社員と新しい社員との間で環境経営について考え方が異なることを実感する。代表者として、全社員に対し、共通の考え方を再度示す必要があると考える。専務を中心に、2020年度はこの改善に取り組みたい。

新和メッキ工業株式会社
代表取締役　瀧見　直人